

弓道いばらき

平成27年 5月 第37号

発行所 取手市駒場1-22-31
茨城県弓道連盟
理事長 大峰 芳樹
電話 (0297-72-3245)
<http://ibakyuren.com>

平成二十七年 度 に向 かって



茨城県弓道連盟 会長 久保田 清

昨年、柴田猛会長勇退に伴い会長職を仰せつかり一年が過ぎました。初めは、何から手を付ければ良いのか五里霧中の状態でした。そういう中ではありましたが、役員、会員の皆様方の絶大なるご支援とご協力により、昨年度の事業を無事に終えることが出来ました。感謝申し上げます。

昨年の競技会を振り返れば、第二回世界弓道大会フランス大会に代表選手として山口純選手が選ばれました。全日本男子弓道選手権大会では、小松正幸選手が、県勢として久々に難関の予選を通過し、惜しくも入賞は逃しましたが、健闘したことは県内弓友に自信をもたらしました。全日本官公庁弓道大会では原子力機構が優勝、明治神宮全国弓道大会では橋本真也選手が称号者の部で準優勝、全自衛隊大会杉山義光選手が準優勝、萩野谷綾子選手が五位、長崎

国体においても、成年男子が関東ブロックを二位通過し、本国体でも近似的五位入賞。成年女子は関東ブロックを一位通過しましたが、本国体では惜しくも予選敗退、今後のリベンジが期待されます。全国高校弓道大会では、女子個人で竹園高校の内田茜選手が七位入賞、関東高校弓道大会では江戸崎総合高校が技能優秀校に選ばれ男子個人でも村松真選手が二位と健闘しました。中体連においても活躍がみられ、全日本少年少女武道錬成大会で清真学園中校が優秀賞、茨城県で開催された関東中学生弓道大会では、男子団体で清真学園中が他を圧倒しての優勝、三位に阿見中、四位に千波中、個人では清真学園中、菊池凜選手が二位、関優太選手が三位入賞、女子の部団体四位内原中、七位竹来中、個人では内原中、瀧澤なつみ選手が優勝、竹来中の齊藤若菜選手が七位。全国中学生

弓道大会においても、男子団体清真学園中の強さは変わりませんでした、予選から一度もトップを譲らず独走しての優勝でした、個人も菊池凜選手が準優勝と、昨年度は若い弓士の活躍が見られました。

審査合格数を見ますと、連合審査の五段合格者が十名、錬士六名、六段六名、教士四名、七段一名でした。徐々に日頃の修練が身を結び始めた感が見え始めました。県内審査も、受審者数2800名の受審があり活発に推移いたしました。

全弓連に目を向けると、昨年は矢羽根の問題が大きく問われた年で、月刊弓道に掲載されたように、問題の当事者に称号の返上を求める厳しい処分が下される結果になりました。茨城県会員の皆様には、必ず正規の弓具商から購入すること、絶対にインターネットや密猟と思われる矢羽根の入手は厳禁であることを周知徹底するようお願いいたします。最後になりましたが、今後も弓道の底辺拡大に力を注いでください。弓道経験者が何千人と眠っておりま

校、中学生のOB会等を活発化し、活動の充実を図り、OB大会等を計画するなど、何かこれまでにない発想で、年々減少傾向ある弓道人口に歯止めをかけようと考えております。今年度は、平成三十一年の茨城国体に向け、県立武道館の改修工事が九月より開始されます。事業の一部が実施できない状態が来年三月まで続き、大会の一部が開催できないなど、会員の皆様方には大変なご不便をおかけいたします。厳しい一年間になりますが、会員一同協力しあい、精進努力し良い年になるよう期待しています。



平成27年度に向けて



理事長 大峰 芳樹

昨年の役員改正による新体制のもと、過日の理事会及び代議員会で、決算、二十七年に向けての議案の審議、説明が終了しました。

お蔭さまをもちまして、すべての議案について議決及び承認をいただき、感謝いたしますとともに御礼申し上げます。

さて、二十七年には、来たる茨城国体に向けての茨城県武道館

の改修工事のため、九月から平成二十八年三月までの長期間にわたり、使用が制限されることとなりました。当連盟の諸行事は、その多くを県下最大規模の茨城県武道館で実施しておりますので、一部事業を断念せざるを得ず、他の会場で事業を行うこととなりました。そのため競技部では、当連盟として必要な代表者を選出する選手権

大会や他の事業を出来るだけ時期を早めて競技大会を実施するなど調整を行いました。また、指導部の事業では、各種講習会等を一回にすることにいたしました。審査部の事業では、例年通り年間を通して審査会を実施してまいります。が、県武道館以外での会場の使用も多々あり、特に、中高生審査の会場についてはご注意をお願いしたいと思います。

さて、新年度からは、来たる茨城国体に向け、競技部の体制の強化を行ってまいります。国体競技運営を順調に実施できるよう、競技部内に専門の係員を固定的に配置して競技大会の運営を実施・経

験のうえ、国体競技を円滑に執行できる体制を整えてまいりたいと思います。

以上のように、新年度の事業や茨城国体に向けての体制の強化など、会員の皆様方には今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。次に、報告となりますが、つくば市における弓道場の建設計画につきましては、是非とも十二人立の弓道場建設を求め会員の皆様に署名を募りましたところ大変短い期間にもかかわらず千六百二名の署名をいただきました。当連盟として（仮称）つくば市総合運動公園における弓道場建設に関する請願書をつくば市議会に提出



茨城国体に向けての進捗状況



国体準備委員長 森 昭夫

(一) はじめに

国体準備委員会は現在の所、白石副会長、竹之内強化部長と私の活動してまいりますのでよろしく

三名で活動しております。

国体準備委員長 森 昭夫

(二) 長崎国体視察

お願いたします。

昨年は長崎県島原市で第六九回「長崎がんばらんば国体」が開催され一〇月二日～一五日まで白石副会長と共に視察に行きました。視察員は次年度開催の和歌山県から五名、以下開催順で岩手県四名、愛媛県二名、茨城県二名、鹿児島県二名の計三六名でした。

本年度は競技部員を含めたメンバーで和歌山国体（紀の国わかやま国体）田辺市の視察を実行したいと考えております。

島原の視察では台風が直撃し、一日中ホテルに缶詰め状態でした。大会運営も初日を中止し、四日間の日程を急遽三日に短縮して開催しています。長崎県実行委員会と全弓連、日本体育協会、文部科

学省で協議して遠的予選は四ツ矢一回のみとなりました。国体史上初めての事態だったそうで、こうした非常事態もあり得ることを事前に察知しておいて準備しておく必要性があると痛切に感じた次第です。

総務企画委員会からの報告



総務企画委員長 白石 直之

総務企画委員長の張替謙一先生が昨年12月に急逝なされました。総務企画委員長として課題の解決に向け様々な角度から検討を始め

たばかりのことで、心残りのことであつたと思われます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。張替先生の後を継いで小生が委

員長を代行することとなりました。昨年度、張替先生は久保田会長の重点目標の、一、競技力の向上、二、中央審査合格者人数の増加、三、弓道人口の増加の3点についてそれぞれに見解を述べています。一の競技力の向上については、茨城国体に向けての選手選考と強化のあり方、また関東選抜、全日本選手権、全日本遠的選手権への派遣選手については一朝一夕には育

たず、各大会の選手選抜のあり方と共に、中・長期的な選手の育成を計ることの必要を述べています。二の中央審査合格者人数の増加については、県主催の講習会の充実と共に、支部、地区主催の講習会の充実を図り、射技体配の向上を図ることが重要としています。三の弓道人口の増加には、各支部活動の活性化と学校弓道との連携の必要性を説いています。

その他大会運営方法や各種会議における手当のあり方等について張替先生を中心に検討してきた内容を年度末の理事会に報告提案をさせていただきました。一の選手権大会について、予選と決勝と2日間を実施することし、競技部に原案を検討していただき新しい方法を今年度から実施することとしました。二については、県の支部指導者講習会への各支部指導

(三) 茨城の施設改修について

【写真は台風に備えて通路の仮設テントをまくり上げている状況。奥に遠的的場が見える】



県の担当者からは「東京オリンピックに絡んで建設資材の高沸がある。また県財政も逼迫していることから、弓道場の整備を含めた国体向けの施設整備については、

平成二五年一月に行われた中央競技団体正規視察での指摘に基づき、昨年六月に県保健体育課と話し合いが持たれました。主要な所では遠的射場の拡幅化と6m的側に拡張、仮設の場の恒久施設化です。近的射場では現行青空観覧席に屋根を設置する及び西日対策です。基本は国体後にいかに役立つ施設になっているかがポイントになります。

国の補助金を活用することが必須であり、国の二七年度予算内示までは、来年度に施工できるかも含め、工事内容・工期等は確定できません」との返答が一月にありましたが、三月末でも依然として動きがありません。次号で発表出来ればと考えています。本施設の改修が決定しないと仮設担当の水戸市も計画を進めることが出来ず苦悩されている状態です。

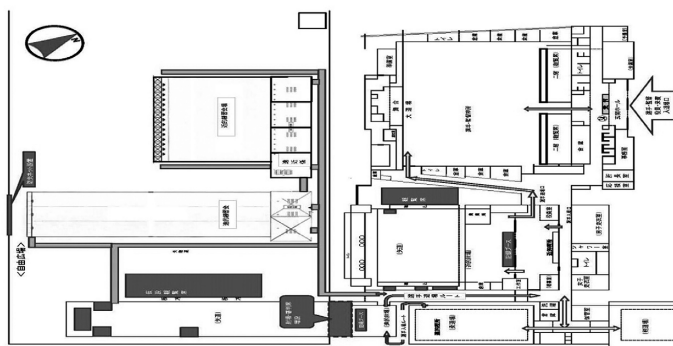
(四) 終わりに

あと四年後に開催される茨城国体に向けて、会場の整備を肅々と進めなければなりません、国体

前年には国体リハール大会として全日本勤労者弓道選手権大会が開催されますので、あまり余裕はありません。

昨年と同じお願いになりますが、国体リハール大会と国体本番で役員として多数の方に参加協力をお願いすることになります。その時には快く積極的にご協力の程を、今からお願いたします。

【図は堀原運動公園武道館に於ける弓道競技開催概要図(案)です。自由広場に遠的と近的の練習会場を設置予定です】



専門部だより

指導部

部長 川瀬 政人



昨年度の指導部主催講習会に、各支部より多数の参加

者の参加と、支部に戻つての伝達講習会の開催と報告することとしました。三については、理事の皆様から広く意見をいただきましたアンケートなどを考えていますが、今後の課題として検討していきます。

大会運営について、すべての大会が同一基準で行われるためには、競技部で大会運営を行うことが必要であり、そのためには競技部の増員を計る必要があります。さらに茨城国体に向けて競技運営方法について研修をする必要であることを提案しました。

総務企画委員会の役割は総務企画委員会規約第2条に「委員会は弓道指導方針の策定、審査会の合理的運行の検討、国体選手強化計画の策定、連盟活性化の施策など会長が会務に要する重要案件を付託し、長・中期的にまとめて会長に報告するものとする。」とあります。会長の諮問機関としての性格を有していることを踏まえつつ、県連の各行事を見直し、各部の役員の方々の意見を集約検討して必要な事項については素案を作成し会長に報告していきたいと考えています。

まいりたいと思います。

一、競技会、講習会には積極的に参加し、より競技力の向上をはかる。

二、競技、審査とも日頃から基本通り、射法八節に則った射を目指す。

三、射法、射技の理解を深め、体配の向上を目指す。

講習会の目的は、大会等で、とかく軽視されがちな体配の習得かと思ひます。「特に入場時の第一歩」でその人の習熟度が分かったとしても過言ではないかと思ひます。

講習会で教わったことを、一つ一つ何度も繰り返し反復練習して体得することです。指導部としては少しでも皆様の手助けが出来ればと考えております。

最後に、講習会に大勢参加の協力と、会員皆様方の活躍お祈り申し上げます。

【指導部からの連絡事項】

平成二七年度の講習会内容は、茨城県武道館改修工事に伴い縮小され、昨年とは大きく変更になりましたのでご注意ください。

一、昨年まで、各講習会二回実施

の「三・四段講習会」、「五段講習会」は各一回になりました。

二、「錬士講習会」と「教士講習会」は合同開催で一回になりました。

三、本年度から、講習会の指導充実を図るため、「支部指導者講習会」（伝達講習会）は支部の指導者が参加する事。

（昨年は二段、三段の方が受講する支部もありました。）

四、支部指導者講習会に受講された指導者は、指導内容を各支部持ち帰り「支部講習会」を開催し、講習会の内容を伝達し講習会終了後、報告書「講習内容、指導者名、期日、場所、参加者名簿」を作成し指導部宛てに提出願ひます。

（支部会員の少ない支部は他支部との合同開催も可と致します。）

審査部

部長 和泉 武



初めて審査部長と云う大役を仰せ付かってから一年が経

過、今、大過なく年度終了を迎え安堵しているところです。これも一重に審査委員の先生方のご指導と、審査部員のご協力の賜と感謝の気持ちです。更に審査関係の取り纏め役の各支部長、学校顧問の先生、受審者の方々のご協力も忘れてはならないと認識しております。紙面をお借りし御礼を申し上げます。

さて昨年度の県内審査会の実績を振り返ってみます。四回実施の中高生審査会は水戸・土浦・取手の三会場十三射場で受審者数は二四四九名、同じく三回実施の一般審査会は、二会場三射場で三六三名の実績でした。両審査会受審者数の合計は二八二二名となり、対前年比一三二名の増加でした。この傾向は今後も続くと予測しております。各道場共、収容能力ぎりぎりの運営を余儀なくされ、其々の審査会は受審者は無論、関係する皆さまにはご苦勞をお掛けしたと思ひます。そんな中、真剣に審査に取り組む姿勢は「有難い」の一言でありました。感謝と同時に今年も気遣い怠りなく、其々が審査に集中出来るよう努める所存でございます。

さて今年度を考えますと……。今年度は大きな課題を抱えることになりそうです。それは来るべき

審査運営に最大の努力傾注は勿論のことです。御座います。

審査部からのお願いとお知らせ

一、全日弓連より「審査規定の改定・整備」に付いての通達がありました。但し今年度は試行期間となっております。茨弓連としての具体的対応は「学科試験問題の公開」は実施したものの、その他の項目の進め方は今後の課題となっております。近々のうちに会長を筆頭に検討を開始します。方向性が明らかになり次第ご連絡致します。ご協力をお願い致します。

二、審査申込に関わる事務処理上のお願い

①県内審査、中央・連合審査申込期限の厳守 ②申込時の事務手続きの注意事項の順守 ③審査当日の注意事項の順守 尚これらの注意事項の詳細は既発行「平成二七年度審査要項」をご覧下さい。

種々対応を考慮中です。どうかこの状況をご理解の上、新たな会場に拘わりの方々も含め皆さまのご協力を切にお願い申し上げる次第です。審査部員総力を挙げ円滑な

競技部

部長 小松 正幸



競技部長を拝命して一年になりました。その間、久保田会長

はじめ役員の先生方、そして会員皆様のお力添えにより平成二十六年に予定しました全ての大会を滞りなく終了する事ができました。競技部一同、心よりお礼申し上げます。

振り返ってみますと、色々ご迷惑をおかけした点多かったと思います、今後ご指導をいただきながら少しずつ改めてまいりたいと思います。

競技会参加者が減少する事だけは避けたいと思いつながらスタートしました。大会により増減がありましたが、二十六年度大会参加申込者数は、延べ二千九十一名となり前年度比九十四名増加という結果でした。減少してしまった大会は選手権大会、県民総体、遠の大大会です、その中で遠の大大会は以前から参加者が少なく、各大会の度に施設部、地区役員の方にお願ひし自由に練習ができるように

対策を講じておりますが効果は現れず、八名減少七十九名の参加でした。特に女性の部においては四段以下四段以上ともに、十一名と何とも寂しい内容でした。女性の皆さん誘い合つて多くの参加をぜひお願いします。増加につながる良い方策がありましたら提案していただきたいと思います。

すでにご承知のように平成三十一年茨城国体に備え水戸武道館の改修工事が行われるために、本年は九月から武道館の使用ができません、そのために多くの競技会を断念せざるを得ませんでした。全国大会などの選考を兼ねる大会を優先した結果、県選手権大会県民総体・遠の大大会・中野杯記念大会に絞る実施することになりました。ご了解をお願い致します。

最後に競技の運営について今後の方針について申し上げます。

茨城国体まであと四年、各方面において着々と準備が進められていくところですが、弓道連盟競技部といたしましてもこれを成功させるためには、競技運営力の養成が不可欠です、そこで県の競技会運営を現在行われている地区当番制から専任者の運営に

改め、国体本番に向けて養成を図つてまいります。スタッフが揃い体制が整った時点で切り替える方針です、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

強化部

平成27年紀の国和歌山国体に向けて

部長 竹之内正宏



昨年の八月に栃木県宇都宮市で開催された東ブロック大会

では、成年男子が、遠的一位、近的五位で総合二位、成年女子が遠的二位、近的一位で総合一位でのブロック通過となり、二十年千葉国体以来の男女そろつての本国体出場となりました。

また、長崎県島原市で十月に開催された「がんばらんば長崎国民体育大会」では、あいにくの台風で思うように最終調整が出来ない中、何とか成年男子が5位に入賞することができました。

また、成年男子の遠的、成年女子の遠的および近的の予選も、あと一本で決勝に残れるような、全

での種目で入賞を目指せる位置まで近づくことが出来ました。

これも、柴田先生、久保田先生をはじめとした県弓道連盟の諸先生方のご指導、ご鞭撻、選手六名のため努力、そして強化練習に参加された方々のサポートの賜物であると強化部一同、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

さて、本年度は、関東ブロック大会が埼玉県上尾市、国民体育大会が和歌山県田辺市で開催されます。

昨年以上の成績を目指し、選手とともに頑張りたいと考えておりますが、もう一度、原点に返って、練習を行っていく所存です。

まず、成年男子ですが、近年の成績を振り返ってみると、平成二十二年千葉国体遠的六位入賞、平成二十三年ブロック予選不通過、平成二十四年岐阜国体遠的四位入賞、平成二十五年東京国体予選不通過、平成二十六年長崎国体近的五位と、入賞した翌年の成績が、これまであまりよくありませんでした。色々な見方があると思いますが、振り返ってみると、どこかに何とかなるだろうという甘さがあったのではないかと

考えています。今年は、これまで以上に厳しく、茨城らしい弓を目指して練習をしていきたいと考えます。

次に女子ですが、平成二十二年以来、なかなか関東ブロックの壁を突破出来ない状況でした。原因は色々ありますが、一昨年度までは、選手三人が遠的、近的の両方そろって実力をなかなか発揮できていませんでした。しかし、昨年は、選手三人が今年こそ関東ブロックを通過するぞという強い意志を持って試合に臨んだ結果、見事、ブロック一位通過となりました。これは、気持ちだけではなく、選手三人が普段からのわずかな時間でも的に向かう練習に対する姿勢と、飽くなき射技への探求心の結果ではないかと考えております。

これらを鑑み、厳しい練習が、より多く、集中してできる環境(強化練習の場)を提供できるようにしていきたいと考えます。

最後に、最近、自分で弓を引くのも、練習を計画するのも、PDC Aサイクルを回すことが重要であると考えています。PDC Aサイクルとは、PLAN(計画)↓

DO(実行)↓CHECK(評価)↓ACT(改善)の繰り返しのことです。一本一本の練習、一日一日の練習、少しずつでも上を目指して、PDC Aサイクルを回していきたいと考えます。

施設部

部長 園部 俊雄



平成26年度の行事も予定通り実施されました。各地区で係を担当していただいた方々に厚く御礼申し上げます。大変ご苦勞様でした。

さて平成二十七年度は、二十九年の茨城国体の準備が始まります。そのため、県武道館の大改修工事が9月から来年3月まで行われます。工事期間中は武道館の使用ができません。そのため、競技大会は八月までの間での五大会となり、例年の半分の大会数になります。

講習会は各部門別に1回、教士講習会と錬士講習会は教士錬士合同で一回となり、例年の半分の回数になります。審査会のみ年間を通して例年通り三回、取手グリー

ンスポーツセンターを使用するなどして実施予定です。過日、つくば市の総合運動公園内に十人立ちの弓道場を建設するための請願書署名を県弓道連盟からつくば市議に提出しました。今後の動きに注目したいと思います。

さて武道館の改修工事内容ですが、①トイレの個室拡張と増設、②近的道場内空調設備の新設、③屋根付観覧席の新設、④日除けの改良工事、⑤遠的道場の拡張工事、⑥遠的場の恒久化、⑦遠的仮設観覧席設置等の予定が有りますが、①、②の実施項目については決定していますが③④⑦の実施項目についてはこれから話し合いを持つて実施する予定とのことです。充実した施設ができるよう期待したいと思います。また、的場的の位置調整用の物差し棒を第一看的場、第二看的場、それぞれに常設準備しましたので利用して下さい。今年度もよろしくご協力をお願い申し上げます。



地区だより

日立地区

原子力機構支部 平根 伸彦

原子力機構支部は日本原子力研究所と核燃料サイクル開発機構の統合により、それぞれの弓道部が合併して発足した支部です。現役の職員を始め、OBの方々や業務協力会社の方々と一緒に活動しております。当支部は、日本原子力研究所(原研)弓道部として創部して以来、これまで活発に活動しておりましたが、こしはくは他の支部同様、なかなか新入部員も入らず、また、入っても定着しない状況が続いておりました。しかしながら、近年は地道な広報・勧誘活動が実を結んだのか、毎年のように新入部員が入ってきており、再び活気を取り戻しつつあります。

通常の稽古は、東海村の国道二四五号線沿い、原子力科学館に隣接した原子力機構弓道場で行っております。この道場は、旧原研時代に職員専用の弓道場として建てられたもので、過去には国体優

勝メンバーも輩出している歴史ある道場です。一時、国道二四五号線の拡幅工事により存続が不安視されましたが、工事が道場に影響しないと分かり、部員一同胸を撫で下ろしているところであります。

当支部における平成二六年度の一大ニュースとしては、全日本官公庁弓道大会での優勝（五年ぶり二度目）が挙げられるでしょう。

この大会は、全国の官公庁職員による大会で、昨年で十七回目の大会が、明治神宮弓道場で行われました。大会当日、予選終了時点で当支部のAチームは予選トップ通過、さらに余勢を駆って決勝競射では一二射一〇中の好的中を叩き出しました。五年前の優勝時は、予選落ちすれすれの通過から、メンバー全員の不安と開き直りから奇跡的な逆転優勝を納めたのですが、今回は予選の手応えから「この調子なら行ける！」という思いを胸に、決勝に臨むことが出来ました。

ただし、好的中と言っても、優勝ラインとしては安心できない的中です。全チームの行射が終了するまでの間、一瞬たりとも気を緩められない緊張の時間が過ぎてゆ

きます。そして迎えた最後の立ちで、千葉県庁チームに同中で並ばれ、二チームによる決勝射詰めとなりました。射詰め一回では決着がつかず、二回目で勝利をもぎ取ることができました。この決勝射詰めでは、会場中の視線が自分たちに注がれていること、自分が外すと負けるかもしれないという重圧を感じながらも、チーム全員、気持ちには熱く、頭を冷静に、「やるべきことをやれば絶対に中たる」という確信を持って行射できたと思っています。「己に克つ」と良く言いますが、射場で頼りにできるのは自分自身だけ。実力を出し切るには「己を味方につけること」こそが重要なのだと、再認



識させられた大会でした。今年、十一月二日に第十八回大会が開催されます。大会二連覇を賭けて、また、部全体の底上げを図って、部員一同稽古に励んでおります。今後とも県連の皆様のご指導とご鞭撻を賜わりたく、よろしくお願いいたします。

水戸地区

内原支部 小形 佳昭

弓道愛好家にとって自分の道場を持つことは一つの憧れです。水戸地区には、県弓連行事もさせていただくことのある柴田猛範士の「存心館」があり、皆さんよくご存知のことと思います。ここでは、今年新たに落成した水戸市支部の橋本眞也教士の道場「天真館」を紹介いたします。

「天真館」は水戸市元石川町のご自宅（宅地と農地合わせて千五百坪）の一角に建てられました。今年の三月七日大安の日に、向こう三軒両隣の方も含め、五十余名の参列者を迎えてお披露目の射会が催されました。柴田猛範士、鈴木康弘教士（群馬県弓連副会長）の挨拶のあと、橋本先生のご長女

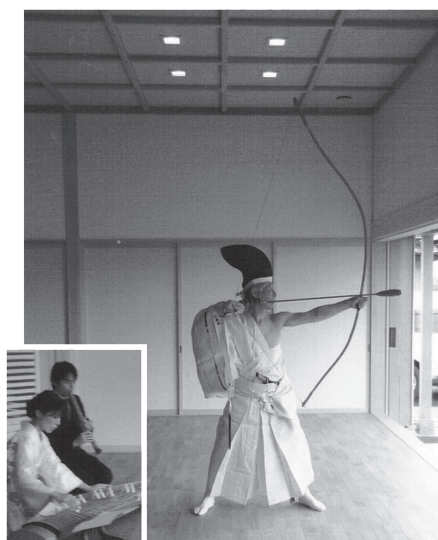
夫妻の箏と尺八による「六段の調べ」が奏でられるなか、市毛宗光氏謹製の鎗矢を携えた橋本先生が入場、幕目の儀が滞りなく行われました。先生の長年の夢が叶った瞬間でした。引き続き、鈴木康弘先生、杉田博先生（長野県弓連理事長）、柴田猛先生（長野県弓連）の審査の間合いで続きました。

道場名「天真」の由来を尋ねますと、辞書の訳の通りとおっしゃったあと、「天は自分を取り巻く環境であり、そこには人がいて、物があり、法則があります。その中で素直に生きることを学ぶ修行の場になりたい」と付け加えられました。

道場の間取りや建具の造作の設計は、旧来の観念に拘らないで、橋本先生自らが行い、先生の思いが表現されています。射場の広さは、三人立ちの色々な射礼が可能な最小の広さを検討して、間口四間、奥行き四間半に決めたそう

です。建物の造りは、檜木の五寸柱が使われ、床板には栗の無垢材が敷かれ、建具も含めて本格的な和風建築です。引き戸の雨戸には、厳寒の日や風雨の強い日のために武者窓が取り付けられ、その一つが射場の中央に来るように枚数が奇数の七枚になっています。このようなこだわりとも言える工夫が、そこかしこに見えますので、それらを幾つかを紹介します。

脇正面には奥行き一間、間口二間の審判席、その右並びに間口一間半の観覧席が設けられています。この観覧席は、障子を閉めて観戦できるほか、猫魔障子を下ろして着替えや食事することもできる多目的空間になっています。障子の数は三枚にして、障子を開け



放った時、間口の三分の二が大きく開放できるようになっています。その隣、脇正面の右端には、一坪の給湯室を設け、生活環境を整えています。

射位の後ろ側には間口二間、奥行き四尺の弓具庫が配置されています。この弓具庫の並びには間口一間半の巻藁庫が用意されていて、通常は閉じている三枚戸の両脇の戸を中央に引き寄せると、同時に二台の巻藁を使うことができます。間口一間半の玄関の左右には下足箱、弓立てがそれぞれ設えられていて、下足時の便を図っています。玄関から射場に上がり、隣には荷物を置くための3畳間があつて、そこから隣に一坪のトイレに繋がっています。このトイレは一畳の畳が敷かれ、衣装直しができるようになっています。

先生のこだわりの極め付きは音響システムです。先生自ら配線工事をして、射場の四隅と審判席、観覧席の各天井にスピーカーが計六つも組み込まれています。音楽の射に対する効果を研究したいと先生はおっしゃっていました。

取材をさせていただき、天真館弓道場が、今後、多くの弓道家を

輩出し、弓道を進化、発展させていく基となつて下さるような空気を強く感じました。

石岡地区

美野里支部 丸 三郎

石岡地区では、石岡市、航空自衛隊百里、玉里酔心館、桐弓会、美野里、八郷の六支部が活動しています。活動状況としましては、前年と相変わらずという支部もありますが、各支部の近況につきご紹介させていただきます。

石岡市支部です。部員三十名の所帯ですが、例年通り月例射会、芹澤杯五十射会、花見射会、祝賀射会等の各種射会の実施、弓道教室の開催等と活動を続けています。又、石岡市に來訪するフランスからの留学生に対して、日本武道の体験の一環として弓道体験教室の開催も続けています。悩みとしては、昼間の活動が主であるため、若い部員の獲得が困難である点ですが、シニア中心の毎日の活動は、弓道を通じた親睦や健康維持に大きく寄与していると考えています。

航空自衛隊百里支部です。支部

は創部五十周年を迎え、いよいよ円熟期に入り、各種大会への参加に努力しています。昨年の全自衛隊弓道大会では連覇を逃しましたが、新たな目標が見え、一層の練習が必要であると感じさせられました。この五十年の間、数々の指導者のもと部員一同研鑽を積み込みましたが、今年の三月十四日に百里基地弓道部の創始者である初代部長、範士八段青山幸陽先生が永眠されたという突然の訃報に接し、五十年の時の長さを痛感しました。故人のご遺徳を偲びご冥福をお祈りすると共に、今後の百里支部を更に精強なまま継続させていくことを心に誓いました。

玉里酔心館支部です。部員十三名で活動しています。練習は平日木曜日を除く、夜二十時から二十二時、土、日曜日は自由練習日で、各自が都合の良い時間に練習しています。若手は、梅観大会、桜祭り大会など各地の競技会に積極的に参加して好成績を残しています。今年も国体選手を目指し強化練習に二名が参加しています。茨城国体もあるので是非とも頑張つて欲しいものです。尚、支部の活動はホームページとプログ

で情報の共有化を図っています。

桐弓会支部です。部員十名で活動しています。地域の弓道行事として石岡市体育協会主催の武道大会に弓道の部があり、石岡商業高校の弓道場で開催されています。練習は毎週月曜日の夜を支部練習会としていますが、部員それぞれの仕事の都合もあり、各自で練習時間を確保している状態です。

美野里支部です。部員十名で活動していますが、相変わらず練習に精勤できる部員と時間がとれず練習に参加できない部員との二極化の問題が解消されていません。又、若手部員の加入を心待ちにしている状況も変わっておりません。



若手部員の加入があつても一時的な転入者がほとんどで、なかなか定着させることができていません。

定着し活発な活動を期待できる若手部員を募集しています。

八郷支部です。部員三名で活動していますが、部員が少なく又、高齢化のため、支部主催の弓道大会、弓道教室の開催等はできていません。徐々にでも部員数を増やして活発な活動ができるようにと思っています。

鹿行地区

潮来支部 高品 正美

鹿行地区は、麻生支部(十六名)、鹿嶋市支部(十三名)、神栖市支部(三十六名)、山王会支部(八名)、玉造支部(五名)、波崎支部(十二名)、銚田市支部(五名)、三菱化学支部(六名)、潮来市支部(十五名)の弓支部があり、百十六名の会員登録(平成二十六年度現在)がされております。

各支部での、年間を通して独自に開催している弓道大会を紹介いたします。

麻生支部では、五月に麻生運動広場弓道場で麻生杯弓道大会が、

十月には、行方市あきんど祭り弓道大会が開催されており、地元物産が賞品になるということでも人気の高い大会です。

鹿嶋市支部では、4月には深遠なる鹿島神宮の森の中にある弓道場で、鹿島神宮弓道大会が開催されており、県内外の高校・一般の弓友の集う歴史ある大会で、みなさんもよくご存知のことと思います。また、十二月にはカシマススポーツセンター弓道場で、鹿嶋市弓道大会も行われております。

神栖市支部では、五月に神栖市武道館弓道場で神栖市弓道大会を開催しております。

鉾田市支部でも、十月に鉾田市総合運動場で鉾市弓道大会が開かれています。

潮来市支部では、六月にあやめ祭弓道大会が県内外の高校・一般の弓友の参加を頂き開催されております。

今回は、この大会の歴史を少し詳しくお話しします。
潮来弓友会の始まりは昭和二十六年からです。

翌年の昭和二十七年六月に、潮来町の観光事業として、第一回

「あやめ祭り」が開催され、これと同時に、近隣の弓道愛好家を集め、第一回の「あやめ祭弓道大会」が開催されたのが始まりです。

最初の会場は、稲荷山公園の野立の弓道場でしたが、その後、弁天山の麓に、個人の道場として「至禮館弓道場」が出来、そこで長く開催されておりました。

現在は、昭和四十九年の茨城国体秋季大会弓道競技会場として竣工された「潮来町立弓道場」その後、町より県立潮来高校へ移譲された弓道場を会場に使わせて頂いております。

館内には、国体当時の役員名と成績が書かれた掲示板があり、当時を思い出すことが出来ます。

競技内容は、三人立、三射場、九人立で行われ、射詰、射込、団体戦、花的を行っております。

何と言っても、大会で一番盛り上がるのが花的です。全ての競技の結果が出た後の余興です。四個のあやめの花の絵が描かれたのを

高校男子(一)・女子(一)・一般(二)に分けて行います。道場いっぱい人があふれ、一喜一憂のひと時です。もちろんのちに、花的と、あやめの鉢が賞品と

して贈られます。

余談になりますが、総合優勝のチームに贈られる優勝旗あります。これは昭和三十五年に水郷潮来観光協会より、大会優勝旗として贈られた旗で、現在も六十三枚の優勝チームと氏名が記入されたペナントがたなびく貴重な優勝旗です。例年、参加者は二百名前後の大会ですが、今年で六十四回を数えます。どうぞ一度、あやめ見物兼ねてご参加ください。
お待ち申し上げております。

土浦地区

■支部■

土浦地区各支部の近況を紹介いたします。

土浦亀城支部は年間行事として、1月の初射会、2月の槌難射会、3月には50射会を行い緊張感の持続力と体力の強化に務めています。また、秋には敬老射会、年末には大掃除・納射会・忘年会を行い、毎月1回の練成会では、会員の鍛錬の場として体配の修練を行っております。初心者のお入会も随時歓迎しています。素引きとチョンガケを使つての離れの練習から始ま

り、次に巻藁前と個々に目標を持たせ自主的な稽古ができるような指導を心がけています。

阿見支部の活動としては平素の錬成を月水金の午前と土日の午後阿見中学校弓道場において行っています。射会としては春季大会・納射会を行い、秋には秋季大会に代わり伝達講習会を行っております。県連主催の大会には春季大会・中野杯・段位別大会、支部対抗戦、新年射会に参加、新年射会において三段以下女子の部において木村よう子さんが二位に入賞し、日々の錬成の成果をあげました。

二十六年度から高校生一名が練習に参加し活気づいています。さらに底辺拡大に努めてまいります。

土浦支部は、高段者から入会間もない人まで、約六十名。練習日は、火曜日、金曜日の午前の部と夜の部です。ホームページ開設(「ようこそ土浦弓道会」です)

や弓道教室を開いていることで入会者が増えてきています。道場の練習は高段者の指導を受けながら、また、会員同士、声をかけあい自由な雰囲気の中で行っております。例会は毎月、第二土曜日の十時から十二時まで射技研修、一時

から五時まで競技を行います。矢渡しの後、一手坐射、四つ矢三回の立射で行います。季節によっては金的、余興的も加わり楽しい例会になります。支部最大の行事は土浦さくら祭り弓道大会です。今年五十一回を数え、四月第一土曜日に学生の部、日曜日は一般の部を行っております。例年約六百名の参加があります。また夏期練成会として年一回、柴田猛先生のご指導を受けています。会員は全日本弓道連盟や県連行事、ローカルの大会、審査に参加し、良い結果を残しています。

霞ヶ浦支部です。歴史は古く、大正、昭和初期のころから愛好者によって活動がなされてまいりました。平成十五年に長年の夢がかない町営弓道場(五人立ち)が完成し、旧千代田町との合併により霞ヶ浦支部として現在に至っております。会員は三十数名です。支部主催大会としては五月の平三房大会、霞ヶ浦市長杯です。それから市民ふれあいスポーツフェア弓道体験・武道大会(弓道の部)、月例大会などの大会を通して、潜在弓道人の掘り起こしに努めております。教士三名の指導のもと、常

時体験者を受け入れ底辺の拡大に取り組んでおります。

新治支部です。九十四歳になられる国谷先生の指導のもと、約十五名の会員により毎週土曜日、午後清掃の後、心の鍛錬、射技の鍛錬に努め、一人三十四射の競射を行っています。

県北地区

常陸太田支部 富岡 輝夫

県北地区は、那珂支部、太子支部、太田竹弓会支部、常陸太田支部の四つの支部により活動をしています。県北地区の風土としましては、緑豊かな山に囲まれ、水郡線沿線に位置しています。四季折々の季節には、桜の花が美しく咲き、五月には新緑が見事です。秋には、紅葉、太子のリング、太田のぶどう、梨、大宮、那珂地区では、アユの漁なども盛んです。また冬に成りますと、太子の袋田の滝が凍りまして、見事な景観です。

各支部の日頃の練習は、公益な道場や私的な道場を活用して、数人から10人位で各自の目標に向かって鍛錬しています。また各支

部ごとに大会が開かれ、地元の高校生なども参加し交流を図っています。常陸太田支部におきましては、四月の真弓賞弓道大会、十月の常陸太田市民弓道大会を年2回の恒例行事としています。

二年程前の真弓賞弓道大会の様子を紹介します。

当日は、天候に恵まれ爽やかな弓道日和でした。朝八時、高校生が集合し、テントや机や椅子の準備を始めます。その後、一般の会員さん、高校の顧問の先生方の協力により、試合の準備が整ってきます。歴史のあるこの大会は、立川久泰会長が、参加者の名簿の準備、商品、賞状、など一連の手配をしています。寡黙な会長さんです。当日口数は少なく指示はほとんどありません。しかし、周囲の人たちへの配慮に頭が下がります。私などは、八時半分頃、この顔を出すと、朝一番に、会長から「介添え、やって」と言われます。いつものことなのですが、体配に自信のない私は、不安を隠せません。そして、私は暗黙の了解で大会の開会式の司会、進行役を務めます。打ち合わせのない、このような大会においても各人の

役割についてくださる、高校の顧問の先生方には頭が下がります。一般の会員の方も積極的に対応いただきまして、本当に助かり、感謝いたします。恒例の試合の流れではありますが、お昼のお弁当の手配が私の役どころです。人数を確認し、昼ごろに、弁当をとりに行きます。私にとっては楽しみの一つです。試合の流れがスムーズに進み後半に入ります。二時半頃全体の射が終わり、射詰めなどの競射に入ります。真弓賞弓道大会には、射詰賞があり、高校の顧問の先生と生徒の一騎打ちとなりました。7本、8本そして、9本

目、師弟対決は高校の生徒に軍配が上がりました。詰めた本数も素晴らしいですが、師弟双方譲らない気迫が圧巻でした。そんな様子を見守っていた、立川会長は、興奮したように喜んでいました。それを見て私も嬉しく思いました。そのような興奮冷めやらずの中、閉会式の準備へと入ります。一連の流れの後最後に立川久泰会長の本日の試合の講評をいただきます。先程までの熱い戦いを嬉しそうに話す素直な会長の人柄を感じました。立川久泰会長は、弓が好きな

んだな、そして人間が好きなんだなと思いました。心がほっとする、大会でした。

県西地区

■支部 ■

県西地区には、下館支部、北総支部、古河支部、日立化成支部の四支部があります。

下館支部は歴史が古く、昭和八年 大日本弓術会の一支部として弓術研究会が発足しました。これのちの下館真射会になり、昭和三十三年の茨城県弓道連盟の発足時に下館市支部として加盟しました。下館支部では昭和五十八年から弓道教室を定期的に開催し、現在の支部員は、多くが弓道教室の出身者になりました。最近では、団体戦に強みを発揮し、支部対抗、夏季錬成大会などで好成績をおさめています。

北総支部は平成十八年に、旧境町支部と、旧三和町支部を統合して発足しました。近年、坂東市役所の職員の中で、弓道を学ぶ人があられ、その人たちも北総支部に所属して活動しています。坂東市では、二年前から中高校生の大会

会(坂東市弓道大会)を実施して、その大会の運営に坂東市の弓道部員が活躍しています。今年は、三月二十二日に開催しました。中学生が参加できる数少ない大会として、今後も育てていきたいと考えています。また、毎年十一月の第二日曜日には、坂東市で『将門祭り』が開催され、近隣の高校弓道部員が弓の演武を披露していますが、その運営にも坂東市役所の弓道部員が携わっています。弓隊の演武披露は、このお祭りのハイライトの一つになっていて、大勢の観客が見守る中、高校生の懸命の射に大きな拍手が起ります。

日立化成支部は、平成三年に、企業弓道部として発足し、活動してきました。今年度から支部名を筑西五所宮支部と変更し活動を継続していきます。

この四支部が、県西支部連合会として、毎年一月初旬に、県西弓道大会を開催しています。県西弓道大会は、今年で三十四回を数えました。この大会は、関根村夫範士と張替謙一範士が、旧北総高校弓道部のOB会射会として立ち上げ、県西支部の弓引きのみなさんが協力して育ててきた大会です。



初回から大会会長をとめた関根先生が平成二十五年に逝去された後は、張替先生が大会会長を務めていました。まさか、その張替先生が、六十五歳の若さで旅立ってしまったとは思ひもよらないことでした。張替先生は、まさに県西弓道大会の準備が佳境を迎えていた、十二月六日に逝去しました。関根先生、張替先生の遺志を継ぎ、これからも県西弓道大会を継続しなければと考えています。平成二十八年一月の大会からは、会場を、下館支部の道場である、下館武道館弓道場で行う予定です。どうぞ、皆様、おいで下さい。

県南地区

飯塚左右二先生のこと

県南理事 坪井 恒雄

先生は、明治三十七年六月二十四日、筑波郡伊奈町に生まれました。東京慈恵会医科大学卒業後、母校で眼科学を専攻研究します。

昭和十年三月、取手市に眼科医院を開業、その後、北相馬郡医師会会長、取手体育協会会長、県弓道連盟相談役をされました。

私が取手弓道部に入っている頃、先生は北相馬郡医師会会長として、取手グリーンセンター前の取手医師会病院の建設に取り組み、お忙しい毎日を過ごしておりました。

先生の弓道の開始は、昭和十年頃、町の有志で弓道場を作り、練習ができるようになり、学習院弓道師範 大内義一範士を道場の師範に迎えます。本多流の流れを汲む道場としての中万能主義を排し、弓道の本義を研究する方向に進み、大内範士の道場『生弓会』の取手支部として名称を、正弓会としました。

昭和三十四年八月、自宅に弓道場を自費建設され、これを取手体

育協会弓道場として地域内の弓道同好の士に広く無償で開放され、昭和六十二年のグリーンスポーツセンター弓道場の完成まで続きます。

先生は、「早朝五時頃に道場に來て、東京への出勤前に練習される方や、仕事が終わってから練習にくる熱心な人がいますよ。」と話されていました。本当に弓の好きな先生と感謝しました。

先生と二人きりの練習のときには、「今日は的張りをしよう」とか、矢道の草取りなども思い出深く残っています。

先生は中りを求めませんでした。射に対する追求は厳しく、日夜研究に精進し、真夜中でも工夫がつくと道場に出て弓矢を手にして実験していたと話されていました。

弓は弓手、妻手を引き続けること。妻手肘が肩の裏筋に入ります。弓手は前膊を一緒に前方向に張り、そこで離れが出ると話され、今も大事に練習しています。昭和四十年、取手一高が県代表になり、全国大会に出場します。取手駅前で盛大な出発式が行われたと選手の一人が話されていました。その時のメンバーの一人が県連会長の久

保田範士です。当時の練習道場は、取手一高の弓道場が校舎改築のため、飯塚先生の道場を使用していたそうです。

先生は、取手グリーンスポーツセンター弓道場の建設にも非常に貢献しています。体育館としての完成の終わり頃でしたが、県南に大きな弓道場がほしいと、市長さん、県会議員さん、役場の方々に手をつくされ、屋上の弓道場の建設が成ったと聞いております。後付けの弓道場のため、周囲には空調設備や色々な配管が目についたのです。県南にこの弓道場ができたことが、現在の取手弓道部の活躍があるように思います。

取手の弓道場に向くと、弓道の良さが一層深まり、弓道の発展を祈らずにはいられません。



会議報告

県外

関東地域弓道連盟連合会会議
(東京都 4/7 久保田)
全国地連会長会議

(東京都 11/27 久保田)
関東地域弓道連盟連合会会議
(東京都 11/27 久保田)

県内

総務企画委員会

(武道館 5/24、7/19、
H 27/2/22)

役員会(水戸 11/8)

専門部長会議

(武道館 H 27/1/10)

理事会

(武道館 H 27/2/28)

代議員会

(武道館 H 27/3/15)

研修事業報告

県外

(関東北)

地区指導者講習会

(宇都宮市 5/31、6/1)

川瀬 政人、森 昭夫、

小松 正幸、萩野谷綾子、

中嶋 鉄郎、石井 幸子

(関東北)

地区指導者育成講習会

(前橋市 6/7、8)

森實 裕人、石田 昌嗣、

菊地 俊和、小幡 貴司、
稲見 真人、中根奈津美
中央研修会
(東京都 10/3/5)

荻原 裕一
〔関東・東北〕

学校指導者講習会
(千葉市 7/26/27)

境 怜美、飯塚 尚人、
千葉 一茂、唐沢 章

県内

講師審査委員研修会

(H26/4/12 水戸 36名)
第一回 三四段講習会

(H26/5/10 土浦 74名)
第一回 錬士講習会

(H26/6/8 水戸 50名)
第一回 五段講習会

(H26/6/15 取手 29名)
第一回 教士講習会

(H26/7/6 土浦 16名)
支部指導者講習会

(H26/7/26 水戸 37名)
第二回 五段講習会

(H26/8/3 水戸 48名)
第二回 三四段講習会

(H26/8/23 土浦 37名)
教職員指導者講習会

(H26/9/20 水戸 17名)
第二回 錬士講習会

(H26/9/28 水戸 21名)
第二回 教士講習会

(H26/10/25 水戸 22名)
高体連審判員講習会

(H26/11/29 水戸 108名)

国体強化指導者研修会

(H27/1/10 水戸 45名)

加盟競技団体育成講習会

(H27/2/7 存心館 40名)
述べ参加者数 580名

県外大会 一般

第61回全日本勤労者弓道選手権大会
(和歌山県田辺市 6/6/8)

・日立製作所(茨城)

(久保田 亮、笹沼 健一、
木元 雄太)：2次予選敗退

・三菱化学(鹿島)

(山野 貴広、秋山 美香、
諸橋 昭)：1次予選敗退

第52回関東教職員弓道大会
(日高市 7/6)

・男子の部
準優勝 後藤 裕一

第2回世界弓道大会 参加
(フランス 7/19/20)

・山口 純(蒼藤会)

第69回国民体育大会関東ブロック大会
・少年男子
近の 8位、遠的 6位、
総合 7位

・少年女子
近の 1位、遠的 7位、
総合 4位

・成年男子
近の 5位、遠的 1位、
総合 2位：関東ブロック通過

・成年女子
近の 1位、遠的 2位、

総合 1位：関東ブロック通過

第55回関東地域弓道選抜選手権大会
(前橋市 9/14)

・有段者の部
5位 山口 純

・称号者の部
準優勝 小松 正幸

第65回全日本男子弓道選手権大会
(天皇杯)

(中央 9/19/23)
・小松 正幸：8位、中嶋 鉄郎

第47回全日本女子弓道選手権大会
(皇后杯)

(中央 9/19/23)
・柴原 一利子、石井 幸子

第69回国民体育大会
(長崎県島原市 10/13/16)

・成年男子
(久保田亮、尾吹 将大、
山口 純)：近的 5位入賞

・成年女子
(相原利恵、中根奈津美、
石井 幸子)

第27回ねりんピック2014
(宇都宮市 10/5/6)

・福島 勝之、大貫眞智子、
川端 達夫、越川 春江、
小野田文雄、根本 傳哉、
齋藤 千春、濱野 治夫

第65回全日本弓道遠的選手権大会
(中央 10/24/26)

・男子の部
高木 勉、尾吹 将太

・女子の部

宮田 はるみ、上田 有香

平成27年度
明治神宮奉納全国弓道大会

(中央 11/3)
・称号者の部
2位 橋本 眞也(教士八段)

第17回全日本官公庁弓道大会
(中央 11/22)

・団体優勝
原子力機構(平根 信彦、
稲垣 理美、山口 恭弘)

第42回全自衛隊弓道大会
(中央 12/7)

・隊友の部
準優勝 杉山 義光
5位 萩野谷綾子

第58回関東高等学校弓道大会
(神奈川県 6/6/8)

・男子団体の部
予選通過
佐和高等学校、
江戸崎総合高等学校

予選敗退
水戸桜ノ牧高等学校、
土浦工業高等学校、
下妻第一高等学校

技能優秀
江戸崎総合高等学校

・男子個人の部
2位 村松 真(江戸崎総合高)

・女子団体の部

予選通過

宇谷高等学校、
鹿島高等学校

予選敗退

下妻第一高等学校、
土浦第一高等学校

第59回全国高校弓道大会
(東京都 8/7/10)

・男子団体の部
予選通過
江戸崎総合高等学校

・女子団体の部
予選通過

水戸桜ノ牧高等学校

・女子個人の部
7位 内田 茜(竹園高)

第69回国民体育大会
関東ブロック大会弓道競技
(栃木県 8/23/24)

・少年男子
近の 8位、遠的 6位、
総合 7位(不通過)

・少年女子
近の 1位、遠的 7位、
総合 4位(不通過)

第33回関東高等学校
弓道個人選手権選抜大会

(東京都 9/15/16)

・デング熱のため中止

第33回全国高等学校弓道選抜大会
(鹿児島県 1/10/12)

・男子団体の部
予選敗退

・男子個人の部
鹿島高等学校

・男子個人の部

決勝進出
浦邊 遼（鹿島高）
・女子団体の部
予選敗退
古河第二高等学校

県外大会 中体連

全日本少年少女武道錬成大会(弓道)

(日本武道館 7/21)

・女子の部

優秀賞 清真学中

(木塚 梨渚、澤幡 玲奈、
宮谷 基理子)

第25回関東中学生弓道大会

(水戸 8/12)

・男子団体の部

優勝 清真学中

3位 阿見中

4位 千波中

・男子個人の部

2位 菊池 凜(清真学中)

4位 関 優太(清真学中)

・女子団体の部

4位 内原中、土浦三中

7位 竹来中

・女子個人の部

1位 瀧澤なつみ(内原中)

・女子個人の部

3位 中村 由菜(土浦三中)

7位 齊藤 若菜(竹来中)

第12回全国中学生弓道大会

(中央 8/22、23)

・男子団体の部

優勝 清真学園中学

・男子個人の部
2位 菊池 凜(清真学園中学)

連盟後援行事

村松山弓道大会

(東海村 4/6)

土浦桜祭り大会

(土浦 4/5、6)

鹿島神宮弓道大会

(鹿島 4/29)

神栖弓道大会

(神栖 5/11)

あやめ祭り弓道大会

(潮来 6/8)

水戸市弓道大会

(水戸 9/14)

あきんど祭り弓道大会

(麻生 10/26)

県南弓道大会

(取手 10/19)

女子大会

(水戸 10/18)

ねりんピック予選会

(水戸 12/1)

県西弓道大会

(下館 H 27/1/11)

観梅弓道大会

(水戸 H 27/3/22)

茨城県弓道連盟主催(主管)県内大会

勤労者予選会

H 26/3/2

▼団体戦

優勝 日製(日立) A
準優勝 三菱化学 B

▼個人戦

優勝 諸橋 昭

準優勝 久保田 亮

第3位 秋山 美香

春季大会

H 26/4/13

▼団体

優勝 下館 C

準優勝 土浦

第3位 土浦亀城 C

▼男子の部

優勝 久保田浩一

準優勝 川上 義高

第3位 山野 貴広

▼女子の部

優勝 中根奈津美

準優勝 西野 文子

第3位 海老澤美幸

▼称号者

優勝 大崎 真一

準優勝 鈴木正太郎

第3位 後藤 裕一

▼優秀賞(団体)

土浦(第一射場)

土浦亀城 C(第二射場)

▼優秀賞(個人)

門井寿通(第一射場)

山次禎治郎(第二射場)

選手権有段

H 26/4/27

▼三段以下

優勝 文倉 和彦

準優勝 木村孝太郎

第3位 高本 祐一

▼四・五段

優勝 中根奈津美

準優勝 小沼 隆史

第3位 山口 純

▼最高得点

初段以下 田中 孝明

式段の部 文倉 和彦

参段の部 木元 雄太

四段の部 山口 純

五段の部 尾吹 将大

五段の部 藤崎 岳人

選手権称号

H 26/5/24

▼男子の部

優勝 中嶋 鉄郎

準優勝 小松 正幸

第3位 米山 良美

▼女子の部

優勝 柴原一利子

準優勝 石井 幸子

第3位 高羽 京子

▼最高得点

男子・小松 正幸

女子・石井 幸子

県民総体

H 26/6/22

▼男三段以下

優勝 大久保耀生

準優勝 木村孝太郎

第3位 小泉裕太郎

▼男四段以上

優勝 山口 純

準優勝 船越 忠

第3位 久保田 亮

▼女三段以下

優勝 市川 裕美

準優勝 秋山 美香

第3位 下山 幸

▼女四段以上

優勝 上馬 英子

準優勝 中根奈津美

第3位 塚田有美子

▼称号受有者

優勝 柴原一利子

準優勝 鈴木正太郎

第3位 来栖 茂

遠的大会

H 26/7/29

▼男四段以下

優勝 久保田 亮

準優勝 大森 陽平

第3位 浅見 勝晴

▼男五段以上

優勝 尾吹 将大

準優勝 高木 勉

第3位 平戸 信行

▼女四段以下

優勝 中根奈津美

準優勝 杉山 泉

第3位 小林 美環

▼女五段以上

優勝 宮田はるみ

準優勝 上田 有香

第3位 石井 和子

夏季練成

H 26 / 8 / 24

5人立団体戦

- 優勝 下館B
準優勝 水戸桜川A
第3位 日製(日立)
第3位 神栖B

中野杯

H 26 / 9 / 7

男子の部

- 優勝 山口 純
準優勝 久保田 亮
第3位 尾吹 将大

女子の部

- 優勝 相原 利恵
準優勝 杉山 泉
第3位 山崎 亜紀

称号受有者

- 優勝 小松 正幸
準優勝 高木 勉
第3位 菊地 俊和

段位別

H 26 / 9 / 21

二段以下

- 優勝 市毛 隆行
準優勝 吉村 静華
第3位 工藤 慎也

三段の部

- 優勝 稲岡 類
準優勝 濱田 春樹
第3位 木元 雄太

四段の部

- 優勝 相原 利恵

- 準優勝 斎藤 達雄
第3位 河内 史彦

五段の部

- 優勝 尾吹 将大
準優勝 瀬端 裕子
第3位 稲見 真人

称号受有者

- 優勝 後藤 裕一
準優勝 生井 栄作
第3位 小堀 富男

優秀賞

- 三段以下 工藤 慎也
参段の部 木元 雄太
四段の部 橋本 真樹
五段の部 尾吹 将大

武道フェスティバル

H 27 / 11 / 8

男子の部

- 優勝 松永 啓嗣
準優勝 関 優太
第3位 須貝 奨太

女子の部

- 優勝 古川 美羽
準優勝 富田 滯
第3位 平石 梨紗

支部対抗

H 26 / 11 / 24

3人立団体戦

- 優勝 蒼藤会
準優勝 下館B
第3位 下館A
第3位 水戸桜川A

ネンリン予選

H 26 / 12 / 1

選手候補

- 船越 忠、唐澤 叔莊、
山次禎治郎、萩野谷綾子、
川瀬 政人

監督/交代選手

- 鈴木正太郎、久保 喜雄、
村上 美保

新年射会

H 27 / 1 / 18

三段以下男子

- 射詰優勝 山野 貴広
優勝 大金 勉
準優勝 稲岡 類
第3位 増尾 裕次

三段以下女子

- 優勝 吉村 静華
準優勝 木村よう子
第3位 矢崎左知子

四五段男子

- 射詰優勝 山口 純
優勝 大森 陽平
準優勝 岡田 敏樹
第3位 山口 純

四五段女子

- 優勝 松崎 令子
準優勝 石田 祥子
第3位 中根奈津美

称号受有者男子

- 射詰優勝 大崎 真一
優勝 大貫富士男
準優勝 高木 勉
第3位 小出 則行

称号受有者女子

- 優勝 高羽 京子
準優勝 森田 南美
第3位 萩野谷綾子

茨城真教職員弓道連盟県内大会結果

春季大会

H 26 / 5 / 25

男子の部

- 優勝 染谷 学
準優勝 栗田 克紀
第3位 松崎 稔昌

女子の部

- 優勝 山本 聖美
準優勝 佐藤 敬子
第3位 大川都志子

総合の部

- 優勝 染谷 学

秋季大会

H 26 / 11 / 16

男子の部

- 優勝 千葉 一茂
準優勝 染谷 学
第3位 中嶋 鉄郎

女子の部

- 優勝 大川都志子
準優勝 大金喜代子

総合の部

- 優勝 千葉 一茂

高体連県内大会結果

春季大会兼 関東大会予選

H 26 / 5 / 10 (男子)
H 26 / 5 / 11 (女子)

男子団体

- 優勝 水戸桜ノ牧
準優勝 江戸総A
第3位 佐和A

女子団体

- 優勝 下妻一A
準優勝 鹿島A
第3位 守谷A

男子個人

- 優勝 高須 航
準優勝 福岡 遼馬
第3位 松本 瞬平

女子個人

- 優勝 田上沙彩香
準優勝 糸賀瑛里香
第3位 飯塚 美奈

高校総体予選 県民総体予選 全国総体予選 国体茨城大会

H 26 / 6 / 13・14・15

男子団体

- 優勝 江戸崎総合
準優勝 佐竹
第3位 佐和

女子団体

- 優勝 水戸桜ノ牧
準優勝 佐和
第3位 守谷

男子個人

- 優勝 鈴木 敦

準優勝 塙 大和
第3位 宇野 晴彦

▼女子個人

優勝 福田 紗希
準優勝 内田 茜
第3位 稲田 夕華

国体選手選考会

H26/6/21(1次)
H26/6/25(2次)

▼男子の部

候補選手 大森 一輝
福岡 遼馬

監督 和田 啓佑
矢野 大輔

▼女子の部
候補選手 福田 紗希
佐久間香名

監督 糸賀瑛里香
松崎 稔昌

県個人選手権兼
関東個人選手権県予選会

H26/8/19(男子)
H26/8/20(女子)

▼男子総合

優勝 卜部 恵輔
準優勝 和田 啓佑
第3位 日向寺大樹

▼女子総合

優勝 飯嶋 佳菜
準優勝 石塚菜々恵
第3位 塚本 芽依

▼男子1年
優勝 日向寺健太

準優勝 関根 祐也
第3位 小野田 航

▼女子1年

優勝 河野 百花
準優勝 鈴木 花梨
第3位 鈴木奈々子

中野優勝旗大会

H26/9/15

▼男子団体

優勝 清真学園
準優勝 江戸崎総合
第3位 下館第一

▼女子団体

優勝 鹿島
準優勝 守谷
第3位 下館第一

▼男子個人

優勝 篠崎 翔
準優勝 塙 大和
第3位 鈴木 里樹

▼女子個人

優勝 白鳥 愛奈
準優勝 岡野くるみ
第3位 坂本 智

新人大会 兼 全国選抜予選

H26/11/10(男子)
H26/11/11(女子)

▼男子団体

優勝 鹿島 A
準優勝 水戸一 B
第3位 東洋牛久 A

▼女子団体

第3位 石岡商

優勝 古河第二
準優勝 水戸桜牧 A
第3位 江戸崎総合

▼男子個人

優勝 佐藤 慧
準優勝 植田 智
第3位 浦邊 遼

▼女子個人

優勝 柏葉 汐音
準優勝 石塚菜々恵
第3位 久保寺なるみ

県高校弓道冬季大会

H27/2/8(男子)
H27/2/9(女子)

▼男子団体

優勝 鹿島
準優勝 清真学園
第3位 佐竹

▼女子団体

優勝 取手第一
準優勝 鹿島
第3位 東洋大牛久

▼男子個人

優勝 高橋 栄一
準優勝 根本 康平
第3位 塙 大和

▼女子個人

優勝 二瓶 麻美
準優勝 石塚菜々恵
第3位 富岡茉莉藻

中体連県内大会結果

県総合体育大会

H26/7/25

▼男子団体

優勝 清真学園中
準優勝 千波中
第3位 東海南中

▼女子団体

優勝 清真学園中
準優勝 竹来中
第3位 土浦第三中

▼男子個人

優勝 菊池(清真学園)
準優勝 関(清真学園)
第3位 宮川(清真学園)

▼女子個人

優勝 館(稲田)
準優勝 黒澤(東海)
第3位 齊藤竹来

中野優勝旗大会

H26/8/15

▼男子団体

優勝 清真学園 A
準優勝 東海南 A
第3位 太田 A

▼女子団体

優勝 稲田 A
準優勝 土浦一 B
第3位 千波 B

▼男子個人

優勝 高倉(千波 A)
準優勝 関(清真学園 A)

第3位 金沢(東海南 A)
優勝 菊野(清真学園 B)
準優勝 長谷川(稲田 A)
第3位 北澤(城ノ内 B)

▼女子個人

優勝 長谷川(稲田 A)
準優勝 北澤(城ノ内 B)

県新人大会

H26/11/3

▼男子団体

優勝 東海南中
準優勝 城ノ内中
第3位 清真学園中

▼女子団体

優勝 稲田中
準優勝 (龍)愛宕中
第3位 城西中

▼男子個人

優勝 重藤(東海南)
準優勝 海老根(東海)
第3位 磯前(土浦二)

▼女子個人

優勝 平川(龍)愛宕
準優勝 館(稲田)
第3位 鈴木(城西)



張替謙一範士 逝去



で生まれ、昭和四十年四月、福岡県立鞍手高校に入學し弓道部に入部。国士舘大学、大正大学大学院を卒業し、茨城県の高教員として奉職されました。北総高校（現八千代高校）、下館一高、境高校等の勤務高校で弓道部を指導し、各校で優秀な成績をおさめました。ご自身は宮澤廣範士に師事し、全日本選手権大会等で上位入賞を重ねました。その実績は、最高得点一回、二位入賞一回、三位入賞三回、四位入賞二回、五位入賞一回という輝かしいものです。昭和六十一年九月教士、平成二十三年五月八段、平成二十六年十二月六日範士に昇段、昇格。茨城県弓道連盟理事、総務企画委員長。茨城県坂東市体育協会常任理事を務め、地域の弓道振興に貢献し、また、筑波大学医学弓道部師範として、大学弓道部の指導にもあたりました。あまりに早すぎる逝去に心より哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

張替謙一範士は、平成二十六年十二月六日、心筋梗塞のため逝去されました。享年六十五歳でした。張替先生は、昭和二十四年四月二日、福岡県

平成26年度 中央(臨時)審査会 合格者

No	取得	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	七段	塚 田 哲 也	北 総	H26. 7. 5	【仙台】 定期中央審査
2	教士	米 山 良 美	下 館	H26. 5. 5	【京都】 定期中央審査
3		後 藤 裕 一	土 浦 亀 城		
4		廣 原 洋 介	霞 ケ 浦	H26.11. 1	【東京】 定期中央審査
5		稲 葉 健次郎	石 岡	H27. 2.19	教士号取得特別講習会
6	六段	久 保 里 美	鹿 嶋	H26. 7. 5	【仙台】 定期中央審査
7		大 貫 富士男	水 戸 桜 川	H26. 9.28	【上尾市】 臨時中央審査
8		小 泉 紀 子	原子力機構	H26.10.31	【東京】 定期中央審査
9		大 崎 真 一	潮 来		
10		来 栖 茂	土 浦		
11		黒 澤 智 子	三 菱 化 学	H27. 2. 8	【名古屋】 定期中央審査
12	錬士	稲 石 京 子	土 浦	H26. 8. 5	平成26年度一般推薦
13		菊 地 正 光	水 戸 桜 川	H26. 9.27	【上尾市】 臨時中央審査
14		鈴 木 雄 之	土 浦	H26.10.25	【秋田市】 臨時中央審査
15		崎 岡 明 子	土 浦	H26.12.20	【東京】 特別臨時中央審査
16		小 林 恵美子	神 栖	H27. 2.19	錬士号取得特別講習会
17		鶴 見 富 雄	下 館		

平成26年度 連合審査会 合格者

No	取得	氏 名	所 属	取得日	審 査 場 所
1	五段	稲 見 真 人	下 館	H26. 7.20	【千葉市】 関東地域連合審査
2		中 根 奈津美	桐 弓 会		
3		大 貫 勇	藤 代	H26. 9.15	【宇都宮市】 関東地域連合審査
4		伏 木 栄 子	美 野 里		
5		丸 三 郎	美 野 里		
6		斎 藤 達 雄	水 戸	H26.10.12	【水戸市】 関東地域連合審査
7		鹿 野 幸 子	日 立 市		
8		石 沢 英 子	土 浦 亀 城		
9		飯 塚 尚 人	新 利 根	H26.10.13	【上尾市】 関東地域連合審査
10		山 口 純	蒼 藤 会	H27. 2.22	【東京】 関東地域連合審査